

団 体 名：財団法人北海道演劇財団  
 事 業 名：劇団TPS「秋のソナチネ」  
 文章作成：財団法人北海道演劇財団

演目：チャーホフ生誕 150 年記念演劇祭「チャーホフの秋」参加作品

TPS公演「秋のソナチネ」ユジノサハリンスク公演

作・演出・音楽：斎藤歩 演出：宮田圭子 演奏：土田英順（チェロ）

出演：木村洋次 佐藤健一 鎌内聡 林千賀子 高子未来 伊佐治友美子

スタッフ：矢口友理（照明） 尾崎要（舞台監督） 平田修二（プロデューサー） ほか



#### 事業日程

日・曜日	内容	備考
9月25日(土)	出発	日本(新千歳空港)発⇒サハリン着
9月26日(日)	仕込み・ゲネ	A.P. チャーホフ記念サハリン国際舞台芸術センター
9月27日(月)	公演①	A.P. チャーホフ記念サハリン国際舞台芸術センター
9月28日(火)	公演②	A.P. チャーホフ記念サハリン国際舞台芸術センター
9月29日(水)	帰国	サハリン発⇒日本(新千歳空港)着

#### <経緯>

今回は、チャーホフ生誕 150 年記念演劇祭「チャーホフの秋」に参加するにあたり、敢えてオリジナル作品の上演を選択しました。異国の地で、チャーホフの影響を受けて生まれた作品が、国や時間を越えて上演されることこそ、チャーホフが描く「普遍性」に通じていると考えたからです。

## <内容>

歳末の札幌を舞台にしたこの作品は、2008年に開催された札幌劇場祭期間中に上演され、「札幌劇場祭 TheaterGoRound2008 札幌舞台芸術賞特別賞・作品賞」を受賞しました。舞台上で実際に蕎麦を打ち、茹で、食べるまでの時間の中で、「古い」や「希薄な人間関係」という現代社会が抱える問題を背景に、とある蕎麦屋で巻き起こる悲喜交々を静かに描いた作品です。作・演出を手掛けた斎藤歩によって作曲されたオリジナル曲を、元札幌交響楽団首席チェリストの土田英順が演奏し、舞台をより味わい深いものにしています。微笑ましくも、ちょっぴり切ない物語は、多くの観客に支持されました。小さな日常の出来事が、登場人物の心に消すことの出来ない痕跡を残す作劇こそ、まさにチャーホフが生み出した現代劇と言えるでしょう。

2009年には、「札幌舞台芸術賞特別賞・作品賞受賞記念公演」として再演され、札幌のほか、道内3ヶ所（砂川、斜里、紋別）を巡演しました。斜里公演、紋別公演は、平成21年度北海道舞台塾北の元気舞台地域間交流公演（主催：北海道、(財)自治総合センター、(財)北海道文化財団、北海道舞台塾実行委員会）として実施されました。

## <公演の評価・成果>

北海道は、気候的・精神的風土として、チャーホフが生きたロシアとよく似ています。日常生活の中で生み出される会話やそれぞれの人間関係を描く作風は、TPS チーフディレクターである斎藤歩（現チーフディレクター）にも大きな影響を与えています。

小さな日常の出来事が、登場人物の心に消すことの出来ない痕跡を残す作劇こそ、まさにチャーホフが生み出した現代劇と言えますが、本作においてもその精神と方法論が如実に表現されており、このことは地元の観客の多くにも伝わりました。そのせいか、来場者数も当初見込みを上回る観客数となりました。「チャーホフの作品に基づいた多くの参加作品よりも、チャーホフの雰囲気人通じていた」（サハリン国際チャーホフ劇場／ヤーナ・チャーホワさん）と評されたように、北海道が生み出した演劇表現が、自国のみならず国を越えて観る者に感動を与えられると実感・再認識できたことが大きな収穫でした。

## <今後の展開>

優れた演劇を札幌で創り続けると同時に、発信事業の拡大に努めます。2010年、北海道演劇財団は、サハリン州文化庁及びA.P.チャーホフ記念サハリン国際舞台芸術センターと交流協定を結びました。協定に基づき、2011年にはA.P.チャーホフ記念サハリン国際舞台芸術センター「サハリン島」（チャーホフ原作）を札幌劇場祭期間中にシアターZOOにて上演する予定です。